



目的

「数理・データサイエンス・A I 教育（リテラシーレベル）プログラム」では、学生生活や卒業後の社会生活において、数理・データサイエンス・A I を道具として活用し、社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

学修成果

日常生活や仕事現場において数理・データサイエンス・A I を道具として活用する能力、統計データや統計グラフを正しく解釈し、データ分析に役立てる能力を身に付けることができる。

科目構成

全学部選択科目（2単位）

教育学部

外国語学部

看護学部

経済情報学部

数学「データサイエンス入門」

統計入門

データサイエンス・A I に触れることで興味・関心を持つ。
統計データや統計グラフを正しく解釈しデータ分析に役立てる力を身に付ける。

導入

基礎

心得

※修了要件：教養基礎科目『数学「データサイエンス入門」（2単位）』又は『統計入門（2単位）』計2単位を取得すること。

プログラム 内容

- 第4次産業革命やSociety5.0、データ駆動型社会など、現在起こっている社会の変化について、その歴史や背景について学び、ビッグデータの活用事例を通して、データ駆動型社会におけるデータサイエンスの必要性について学ぶ。
- 政府が公開する統計データなどを用いた演習を通してデータの取得や加工の方法について学び、マーケティングサービスにおけるデータの利活用事例から、データの利活用が日常生活の課題を解決するツールとなることを学ぶ。
- 単回帰分析やベイズ推論などのデータ分析手法について学び、応用事例として需要予測を取り上げ、データ分析がマーケティングなど様々な分野に応用できることを学ぶ。
- データ活用の負の側面や、世界で策定が進められているデータ保護規則、データ活用で考慮すべき倫理的・法的・社会的課題について学び、情報セキュリティに関して、プライバシーの観点からデータを守る上での留意事項について学ぶ。